



PET-CT特集

「2回撮影法」で早期癌発見！！

浅ノ川総合病院では 2005 年に県内でいち早くPET-CTを導入し、症例は 8,500 件を超え有数の熟練した技術を誇ります。PET-CTは早期癌の検出が可能ですが、「**2回撮影法**」により早期癌の検出が飛躍的に向上します。浅ノ川総合病院では全例で「2回撮影法」を導入し、早期癌発見に寄与しています。

なぜ「2回撮影法」で早期癌の検出が向上するのでしょうか？

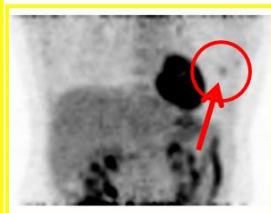
「2回撮影法」とは1回のみならず2回続けて撮影を行う方法です。PET-CT用の癌診断薬としてFDG（放射性のブドウ糖類似物質）を用いますが、癌細胞へのFDGの取り込みは時間とともに増加します。このため、1回目より2回目の方が癌細胞へのFDGの取り込みが増え、より小さな癌が見つかるのです。

PET-CT検診で早期癌を発見

■ 図1



一回目の撮影では正常



二回目の撮影で
小さな左乳癌を発見！

図1は浅ノ川総合病院でPET-CT検診を受けた女性の画像です。1回目の撮影では正常でしたが、2回目の撮影で初めて小さな乳癌が見つかり温存手術が施行されました。

図2は同じく浅ノ川総合病院でPET-CT検診を受けた女性の画像です。

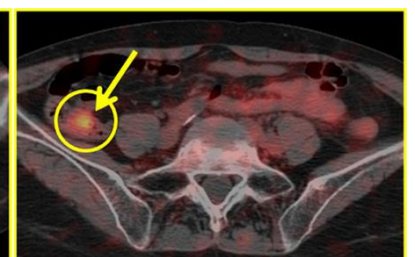
1回目の撮影では正常でしたが、2回目の撮影で初めて小さな大腸癌が見つかり内視鏡により摘出されました。

このように「2回撮影法」で小さな癌の検出率が飛躍的に向上します。

■ 図2



1回目の撮影は正常



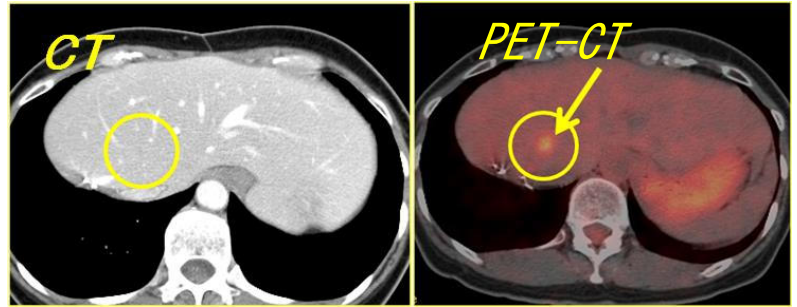
2回目の撮影で小さな大腸癌を発見！

造影CTでわからない小さな肝転移を発見

大腸癌の場合、小さな肝転移を早期に検出することは極めて重要です。一般的に造影CTで検索しますが、PET-CT「2回撮影法」は造影CTでも検出できないような小さな肝転移を見つけることが可能です。

右の図は造影CTで見つからなかった小さな肝転移が、PET-CT「2回撮影法」で発見された症例です。

このように「2回撮影法」は大腸癌の小さな肝転移の検出に大変役立ちます。



造影CTでは正常

PET-CT「2回撮影法」で小さな肝転移発見！

ノバリスによる定位放射線治療の照射野決定に必要不可欠

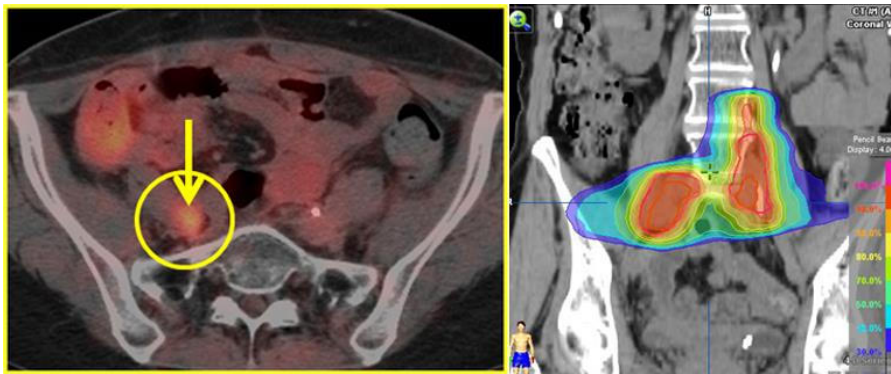
浅ノ川総合病院には癌をピンポイントで集中的に治療できる「ノバリス」という最新の定位放射線治療装置があります。そして、この治療を受けるときに最も大切なことは、どの範囲に癌があるかを正確に判定することです。

PET-CT「2回撮影法」は小さな癌を検出できますので、CTやMRIで癌の範囲がわかりにくい場合でも癌の範囲が正確にわかります。

下の図は子宮癌リンパ節転移に対するノバリス治療例です。PET-CT「2回撮影法」でリンパ節転移の範囲が正確にわかり、治療範囲が決定されました。

小さな癌をPET-CT「2回撮影法」で発見し、ノバリスによる定位放射線治療で治す。

この2つの組み合わせは「**癌治療の最強コンビ**」です。



PET-CT「2回撮影法」(左)で小さなリンパ節転移発見。これにより決定されたノバリス治療範囲(右)

PET-CT に関するお申し込み / お問い合わせ

浅ノ川総合病院 PET-CT 画像センター

TEL : 076-252-1438(直) *PET-CT 検査はすべて予約制です。必ずお電話にてご予約下さい。
お申し込み/お問い合わせ受付時間 : 午前 8 時 30 分~午後 5 時 土曜日は午後 12 時 30 分まで(第 2 土曜日休診)